

平成20年度質の高い大学教育推進プログラム審査結果表【選定】

機 関 名	長崎大学				
取 組 名 称	地域医療人育成プラットフォームの構築				
取組学部等	医学部				
申 請 区 分	教育方法の工夫改善を主とする取組				
整 理 番 号	A21056	申 請 の 形 態	単 独	取 組 期 間	3 年
申請の分類	職業教育	地域活性化			
キーワード	地域医療人育成, 離島医療, 共修, 地域医療総合プログラム, チーム医療教育				

<選定理由>

本取組は、「医学」、「科学」とともに、「人間を学ぶ」という医学部教育目標を掲げ、質の高い地域医療人を育成する視点から、離島における包括的・全人的医療教育に取り組んだプログラムとして高く評価できる。これは、地域医療人の育成を超えて、優れた医療人の育成にとっても重要な教育課題であり、他大学のモデルになりうると考える。

低学年から高学年まで6年間、一貫した地域医療教育体制を長崎県離島の保健・医療・福祉施設を中心に構築し、このフィールドで体験実習を行うことは、極めて大きい意義を有している。

特に、現地に離島医学研究所を置いて、常勤の教授を配置していること、この拠点が大学医学部の先端医育支援センターと協力して、地域医療教育を運営していること、さらに、歯・薬学部生とともに学ぶ（共修）仕組みをつくったことは、高く評価できる。

ただし、現プランでは、5年生のみが全員参加し、他学年は選択となっているが、毎年各学年全員が何らかの形で参加することについても検討してはどうか。

取組の概要【1ページ以内】

長崎県離島地域は、疾病の予防、診断、治療から患者の社会復帰、ケアまでをコンパクトに見通すことができる貴重な教育資源であり、多様な医療職によるチーム医療および実践的な職業教育には格好の環境である。本学では、平成16年度に採択された特色GPを契機に離島の保健・医療・福祉施設における地域医療・保健教育に力を入れてきた結果、多様な実践教育のためのフィールドが整備され、業務参加型実習はもちろん、大学・部局横断的な共修を本格的に実践できる体制が整った。今回申請する取組は、特色GPで整備された教育基盤をさらに発展させ、主に下記の取組を実現させることで質の高い地域医療人育成を推進する。

① 医学科カリキュラムに「地域医療総合プログラム」を編成し、6年一貫した地域医療教育拠点を長崎県離島に構築する。

平成16年度に採択された特色GPは、医学部5年次生の離島臨床実習を主軸とした取組であった。今回の申請プログラムは、低学年のearly exposureから高学年の診療参加型臨床実習に至るまで、一貫した地域医療教育体制を長崎県離島の保健・医療・福祉施設を中心に構築し、離島医療の前線診療に地域保健・福祉が加わった包括的なケア体制を学年に応じて総合的に学ぶことのできる環境をつくる。この教育資源を統合して、全教育課程を通して継続的に学ぶ「地域医療総合プログラム」を開発し、医学科カリキュラムに編成する。

② 大学・部局横断的な共修を実習として推進し、地域で学ぶチーム医療教育を確立する。

既に離島で実践している本学医学生と薬学生との共修、あるいは他大学医学生との共修に加え、本学歯学部や保健学科の学生との共修を導入する。主に保健・福祉分野でのシステムティックな共修体制を確立し、多様な職種の職能理解に基づく実践的なチーム医療教育を推進する。

③ 地域医療教育に関する次世代の指導者を養成する。

医学科地域医療卒の入学生を中心に地域医療総合プログラムを履修させ、地域医療活動に従事する動機付けを行うとともに、選抜した学生に国内外の先進的な地域医療教育を体験させることで次世代の指導者となる人材を育成する。

この取組は、本学が整備を進めてきた地域医療人育成のための完成型プログラムと位置付け、全国の地域医療人教育を先導する「長崎モデル」の提唱を目指すもので、地域医療の向上と地域活性化に貢献することが期待される。

